

輪斑病の新芽生育期防除の効果と要点

[研究のねらい]

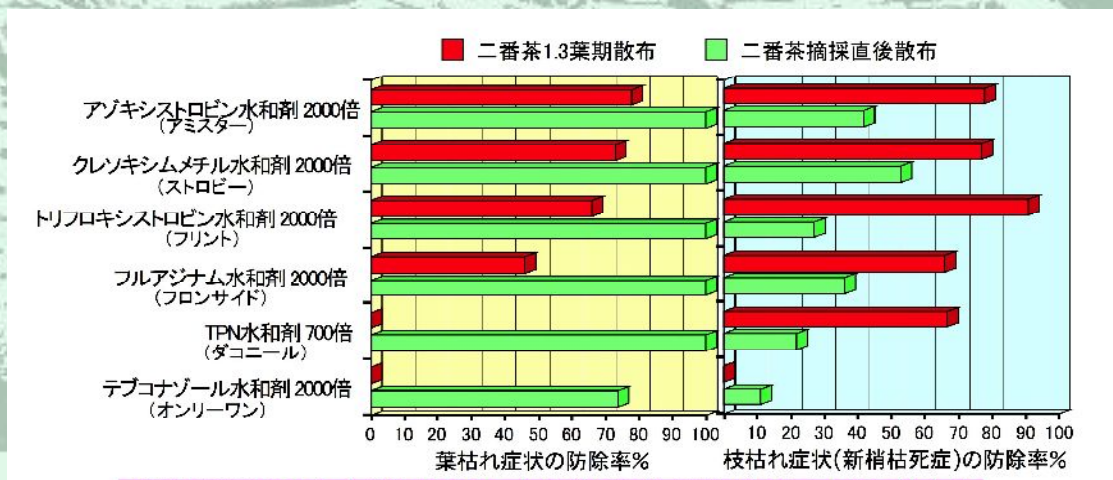
- ・輪斑病の防除適期は摘採直後だが、未摘採園へのドリフト等の問題から実施が困難である
- ・発生茶園では摘採前の新芽に付着した病原菌が発病に関与していることが解り、新芽生育期防除により発生を抑制できる可能性がある。
- ・摘採後の枝に新梢枯死症とみられる枝枯れ症状が多発する茶園ある。
- ・輪斑病の葉枯れ症状と枝枯れ症状(新梢枯死症)に対する新芽生育期防除の効果を検討する。



摘採後に発生する輪斑病の各種症状

[研究の成果]

- ・二番茶の1.5葉期頃にストロビルリン系のアゾキシストロビン水和剤（アミスター、摘採前14日まで）、クレソキシムメチル水和剤（ストロビー、摘採前10日まで）、トリフロキシストロビン水和剤（フリント、摘採前14日まで）を散布することで、摘採後の葉枯れ症状と枝枯れ症状(新梢枯死症)の発生が抑制され、実用的な防除効果が得られた。
- ・新芽生育期防除をする場合、新芽が1葉期に満たない時期では、葉枯れ症状に対する効果が低くなる。葉枯れ症状と枝枯れ症状(新梢枯死症)を同時防除する場合は、1.5葉期前後に散布することが肝要である。但し、使用する薬剤の摘採前日数には十分注意する。



輪斑病の葉枯れ症状と枝枯れ症状(摘採後の新梢枯死症)に対する各種殺菌剤の新芽生育期防除の効果

問い合わせ先 生産環境(病虫害) 0548-27-2885
代表 0548-27-2880
E-mail: ES-kenkyu@pref.shizuoka.lg.jp